

## 12. 河川や下水処理水などを活用し、災害時に役立つ身近な水源を確保する。

消火用水として利用できるよう取水施設を整備する。

- 【取水施設】
  - ・緩傾斜及び階段式護岸、スロープ等の整備
  - ・低水路、溜まり等の整備
  
- 【消防水利基準】
  - ・水深0.5m以上、毎秒1m<sup>3</sup>、40分の連続給水が可能。
  - ・地盤面からの落差が4.5m以内。



〔水辺に近づきやすい河川の整備事例〕

市街地から河川へのアクセスを改善する。

河川の堤防道路とうまく接続できるように市街地の道路網を整備する。

河川堤防の耐震強化、沿川の建築物の倒壊防止、不燃化の促進を図る。

防災上の必要性が高い箇所を河川の改修計画にあわせて整備する。

災害危険度判定調査、地震被害想定や都市計画基礎調査等を活用して、河川の改修計画に合わせ、必要性の高い箇所を整備する。

例) ・火災の危険性が高い木造密集市街地に近接する箇所 など

消防防災部局等関係機関と連携しながら効果的な整備を図る。



消火用水確保のための河岸整備イメージ図



### 防災用ピット全景

天野川の川底を掘り下げ、集水管から右岸（交野市側）、左岸（枚方市側）の両側の集水桝へ水を集めます。集水桝に集まった水はポンプ車で汲み上げられ送水します。  
 「河川における防災用ピットの整備事例」（大阪府・天野川）



市街地の消防水利整備事例 藤井寺市道明寺地区（H15.3 完成）  
 都市防災総合推進事業により既存ため池を消防水利に改修

下水処理水を防災用水として活用する。

災害時の防災用水としても利用できるように、下水処理水をせせらぎとして密集市街地内の街路や公園に導水する。また、水量の乏しい河川・水路などへの放流を行う。

せせらぎ等には溜まり部分を設け、災害時に処理水量が減少しても、当面の用水確保が可能なようにしておく。



環境用水整備事例  
【摂津市ガランド水路】



防災用水整備事例  
【枚方市駅前せせらぎ水路】

下水処理場に処理水供給施設を整備。

非常時の緊急給水に備え、流域下水処理場に、処理水供給施設（Q水くん）を設置し、給水車等の進入路整備も合わせて行う。

災害時に処理水量が減少しても、当面の用水確保が可能なように、下水処理水の溜まりを設けておく。



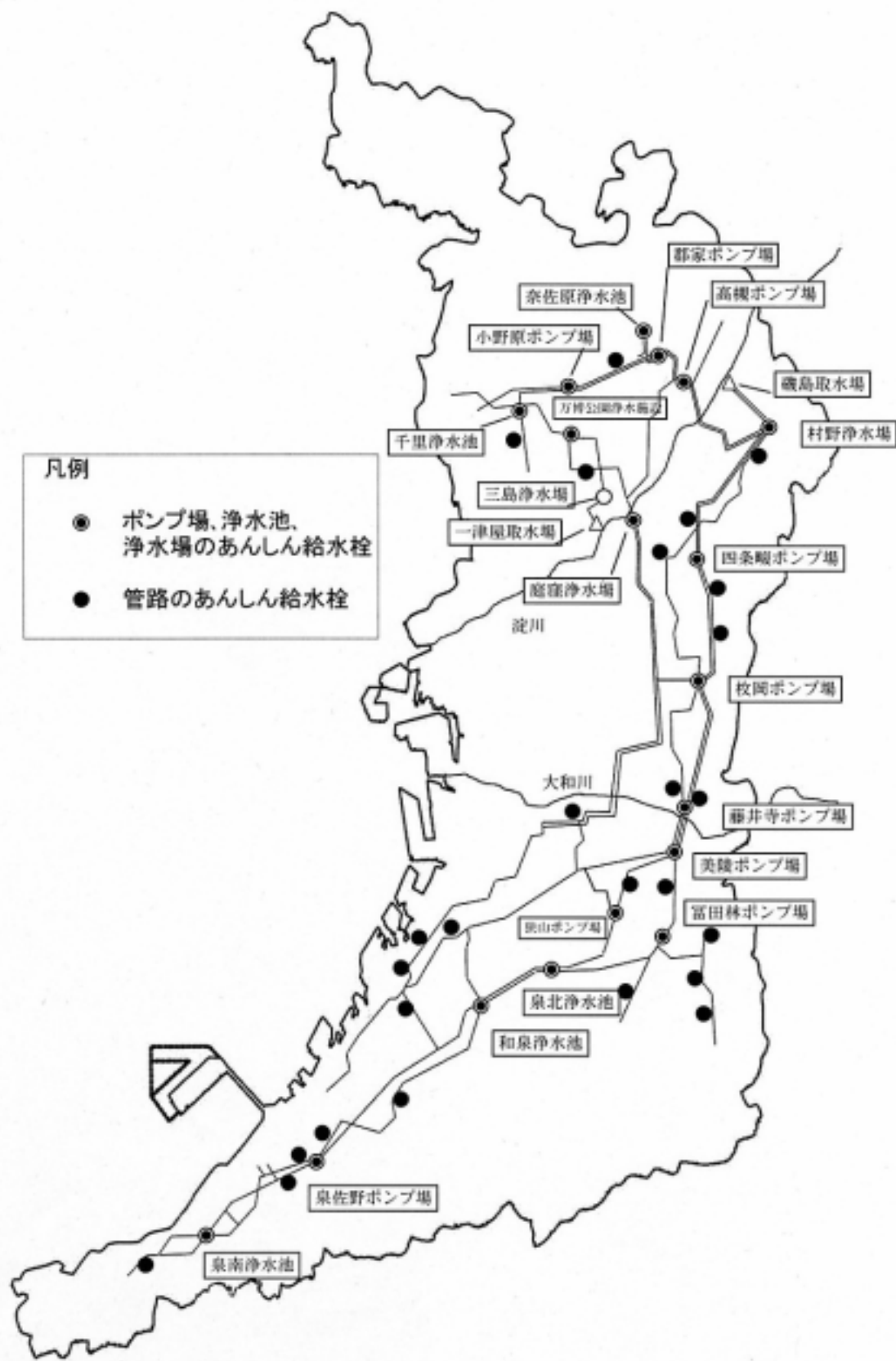
〔下水処理水供給施設（Q水くん）〕

現在 11 箇所（原田・中央・高槻・渚・川俣・今池・大井・狭山・湾岸北部・湾岸中部・湾岸南部）に設置しています。

府営水道あんしん給水栓、ため池、水路等の周辺整備を充実。

府営水道のあんしん給水栓、ため池、水路等の用水源へのアクセス道路や活動のためのスペースを確保する。

# 府営水道系統図及びあんしん給水栓位置図 (平成15年度末現在)



注意) あんしん給水栓のうち、府営水道が送水していない場合に使用できる箇所のみ掲載